

令和5年度 災害時BCP研修会アンケート集計結果

R5.5.27 大久保貴仁講師/地域で進める連携型BCP

【人数】

	申込者数	参加者数	参加率
参集	7	6	86%
Web	33	29	87.9%
計	40	35	87.5%

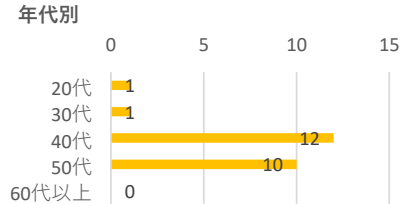
※在宅医療SC2名含まず

【アンケート】

全ての単位/人

>回収数		24
>性別	男	2
	女	22
	計	24
>回収率		68.6%

>年代別	
20代	1
30代	1
40代	12
50代	10
60代以上	0
計	24



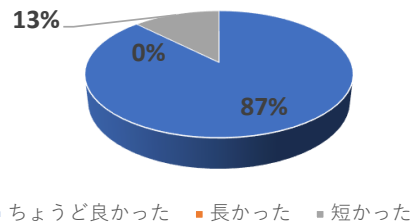
>職種	
看護師	11
介護支援専門員	8
介護福祉士	2
介護職員	0
保健師	3
その他	0
計	24



> 講演時間はいかがでしたか

ちょうど良かった	21
長かった	0
短かった	3
計	24

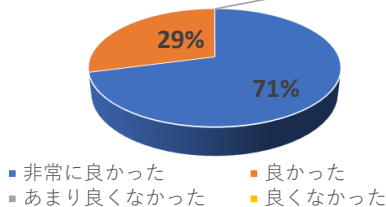
講演時間はいかがでしたか



> 講演内容はいかがでしたか

非常に良かった	17
良かった	7
あまり良くなかった	0
良くなかった	0
計	24

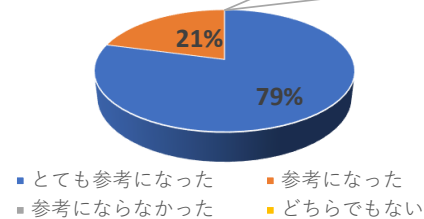
講演内容はいかがでしたか



> 今後の活動に活かすことができそうですか

とても参考になった	19
参考になった	5
参考にならなかった	0
どちらでもない	0
計	24

今後の活動に活かすことができそうですか



Web研修会で気づいた事や今後の課題・疑問等

- ◆BCPはあらゆる場面を想定する必要があるので、まだまだ足りない部分が多いと思います。紀の川市・岩出市はそこまでの災害があまりないため、想像ができないところもあります。一人一人の行動などを想定して検討していきたいと思います。（介護支援専門員）
- ◆内容は、実際されていることが中心でとても勉強になりました。（看護師）
- ◆災害対応を進める第一歩の心構え、無限後退や正常性バイアス等の心構えが勉強になりました。また、災害時は市の組織の一員として動くことになるが、組織としての対応と個別の対応が必要で、自分の置かれている立場で出来る対応は何かをあらためて考えるきっかけになりました。（保健師）
- ◆多職種、行政を含めて実施していく必要がある。通信などのインフラも必要。（看護師）
- ◆実際に今取り組んでいることや課題を知ることができてよかったです。（保健師）
- ◆同グループ施設で働いていても職種により災害の事に対する考え方、意識の違い、差があるため今回の研修をきっかけに改善できたら良いと考えています。（看護師）
- ◆時間制限があるときのグループワークが難しいと思いました。（看護師）
- ◆地域の中でのケースの優先度で、独居・認知症・障害・自ら判断が難しいケースということに納得しました。システム化することの意味と、どう行政を動かすか難しいと思う。（保健師）
- ◆BCP作成に関し、リスクを洗い出し職員全体が情報を共有する事、また、訓練を何度も行い、その時に的確に動ける様にする事が必要だと感じた。（介護福祉士）
- ◆今回の訪問看護での事業継続ができる為の内容が主である中でも、自分達が震災がおこった際に対応できるよう、気持ちを含めての整理、準備を常に行っていないといけないと理解したが、実際震災後に事業所さんの手配や、給付管理をどのように対応できるかが、疑問に感じている。（介護支援専門員）
- ◆災害時のマニュアルについて、サービス中や夜間早朝など、時間に応じて対応も様々である為、作成時には細分化する必要があると認識した。また、他事業所との連携や協力体制を日頃から検討しておく必要があると感じた。（介護支援専門員）
- ◆日頃から情報の聞きとりが大切であると思った。（介護支援専門員）